

臥龍が丘は緑なり

松高同窓会東京支部会報
平成10年(1998)新春号





ごあいさつに代えて

新年雑感

東京支部長 佐伯 益一



私は今 元気で第73回目の新しい年を迎えようとしております。本来ならば先の大戦で失うべき命 よくぞ此処まで生き永らえて来たものと 今さらの如く感慨無量の心境です。

今年の干支は「寅」の年、戦時中は「愛国」または「国防」のたすきを掛けた婦人会の皆さんが街頭に立って虎の図柄に千人針をお願いしていた情景を今彷彿として思い起こしております。古くからの「虎は千里行って、千里戻る」という諺に由来したものでしょうか。

無事生還を祈るとの願いが込められているものであり、これは現今でも立派に通用する言葉と考えております。

こう言うと 戦時中のいやな思い出につながるとか、軍国主義であるとか お叱りを受けるかも知れませんが平和、平和と叫ぶ人の多い昨今 世界中の何処に真の平和があるのでしょうか。毎日血なまぐさいニュースが続いております。日の丸忌避につながるのを私は恐れるのです。ちなみに私は国の祝祭日には必ず日の丸の国旗を玄関に掲げるように心がけておりますが それにつけても我が国の政治の貧困 外交の弱さ 国民の無気力さ 不甲斐無さを つくづくと感じるこの頃であります。

冒頭からおかしな感慨に浸りましたが「寅年」によせて 越後の郷里から立志幾星霜、東京始め各地で活躍しておられる同窓の皆さまが何時の日か功なり 郷里に錦を飾られることを願い念じながら 改めて新年のご挨拶を申し上げます次第であります。

旧年中は同窓各位の限りないご協力を頂きながら東京支部も順調に軌道を走り続けてくることが出来ました。皆さまのご熱意のお陰と深く感謝申し上げます。

「本年もまた 何とぞよろしく」と お願い致しますがただ 残念なことに 支部会員の高齢化は否定できません。各位のお力によって若い方々がどんどん入会されるよう勧誘して頂くのが唯一の願いでもあります。

同窓会は ふるさと会と同様に故郷を懐かしみ旧交を温めると共に情報の交換、知識を吸収する社会学習の場でもあります。更に大切なことは新しい友人を作る場でもあるからであります。

さて 話は変わりますが、9年度8月の母校同窓会本部の総会に出席して来ました。

たくさんの懐かしい方々にお会いできると楽しみにして行ったのですが 予想に反して出席者は少なく旧友は只1人、女性皆は皆さん顔なじみでしたが僅かに5人、挨拶をと言われましたが たまりかねて一声吠えました。

「私達は東京から こうして4人来ている。真に寂しいもっと多く出席されるよう会員は勿論 役員の皆さんの尚一層のご努力をお願いしたい」と。

校長先生は私の気持ちを察せられたのか三次会にまで誘って下さいました。

また聞きですが 後日 意外なことを耳にしました。「大分前のことであるが総会にあまり多くの出席者があると中々大変なんだ。これ位がちょうど良い」と。真意は分からぬが、学校には同窓会担当の教諭が居られる。教鞭を取る傍らの仕事であるから大変とは思いますが、事務局の方も居られる筈、しかし これは裏方。そんなに難しい事ではないと思う。東京では年に一度のお祭りとして役員全部が総力を挙げて大会が盛大になるよう、取り組む。年2回の会報発行にしても その通りである

何もその真似をせよとは言わぬが 在郷の皆さんには格段のご配慮ご努力をお願いしたいと思っております。

思い付いて 平成6年1月発行の同窓会員名簿を開いて見ました。役員名簿には会長 顧問以下理事まで総数171名の氏名が載っています。物故者 高齢者 転居者を約二割とみて現存136名 その半分が総会に出席とすれば 約70名 一般会員を加えれば 100名をはるかに越す筈です。また来賓の数もゼロ 町の役職者が顔を見せないのも不審に思っております。

卒業生の数も 本年でも二万名近くになっている筈です。母校創立90周年も3年後に迎えることになりましたが それに備えても是非、全卒業生一同一丸となって認識を新たに 再検討されることをお願い致します。

新年を迎えるにあたり いささか舌たらずの感もありますが 思いのままを書かせていただきました。

何とぞご海容の程お願いいたします。

最後になりましたが 平成10年の年は皆様にとりまして素晴らしい年でありますように、ご健在とご多幸を再度ご祈念申し上げ ご挨拶に代えます。

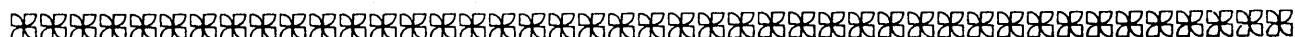
☆

(表紙写真について)

…東京時代まつり…

平成 9年11月 3日、浅草雷門通りで行われた第九回「東京時代まつり」パレードの先頭を行く東京時代祭本旗。このあと、源 頼朝、北条政子、徳川家康、おいらん道中、江戸芸者などが続き、31番目に春日宏美&プリティガールズの「懐かしの浅草レビュー」が華やいびだムードでパレードを締めくくった。主催…東京時代祭実行委員会。共催…(財)東京都歴史文化財団。後援…東京都、台東区、下町ライブ計画実行委員会、朝日新聞社、日刊スポーツ新聞社、テレビ朝日、文化放送。

☆



第40回東京支部大会

県立村松高校同窓会東京支部の第40回大会は晴天に恵まれた6月7日(土)浅草ROXニューオータニ6階ふじの間で同窓生百余名が出席して開催された。

同窓会東京支部では同窓生のお祭りと言う意味合いから総会とは呼ばず大会と呼んでいるが大会は定刻午後2時、斉藤幹事の司会 武藤幹事の開会宣言で始まり先ず鶴巻事務局長の経過報告、会計報告を異議なく承認佐伯支部長からは「今回の大会第40回の意義は極めて大きい、人間に例えるならば不惑の齡、惑うことなく果敢に前進しよう」と力強い挨拶 茂野会長は学校創設当時のいきさつを披露し 過去20数年間東京大会を欠席したのは只の一度だけ、あとはオール出席と83才とは思えぬ元気な挨拶。吉川校長からは学校の現状と生徒の活躍ぶりについて報告、母校の進展振りに一同納得。

次いで第二部に入り、旧中学時の校歌(今は応援歌)を全員で合唱 最長老の小田氏の乾杯音頭で懇親会に入った。そして会場の空気は一変する。

浅草振袖会の三人の振袖さんが更に華やかさを添えてくれて大人気、あちこちで写真のフラッシュが光る。

佐伯賞が当たるビンゴゲームでは11人が当選し、振袖さんの写真入りの冷酒が賞品として贈られた。抽選会では会員持ち寄りの品々が全員に洩れなく当り 鹿瀬会の波田野氏寄贈の「越の寒梅」を胸に抱えて大喜びの人など場内は笑い歓声で渦巻き カラオケの出る暇もなか

った程。手締めは支部長 万歳は校長の音頭で力一杯の万歳で楽しい一日は感謝の内に午後5時終了となった。

次回は品川駅前の品川プリンスホテルで開催する。



あとがき(支部大会)

斉藤 和男(司会・旧中33)

支部幹事の一人として本大会が盛大かつ和やかに進行し、来年の再会を約して閉会したことで安堵しました。出席者各位のご協力に感謝いたします。

司会役として若干の補足をさせて頂くと、本大会には郷里在住の同窓生の出席を賜り、加えて尺八、民謡・佐渡おけさ等の特別出演あり大会を盛り上げて頂いた各位に厚く御礼申しあげたい。

出席者には、若手の同窓生の参加を幹事会では努力しているが、やはり今回もさびしい感があった。同窓の皆様のお力もお借りして、若い同窓生の更なる発掘を高めなければならないと感じた。

散会の折、ある先輩から労いの言葉と来年の大会には是非、郷里の民謡(村松甚句・五泉甚句等)も披露してはどうかとの要望があった。





第40回東京支部大会出席者 (敬称略) 総出席者数 101名

平成9年6月7日 (土) 浅草ROXニューオータニ

◎旧中の部 (18名)

小田 恕哉 伊藤 達郎
芳原 英男 宮 健三
西山 莊平 相田幸四郎
佐藤 豊夫 岩見 益教
遠藤 順 伊藤 勇五

横松 宏平 亀嶋 謙
武藤 三郎 佐伯 益一
坂上 庸蔵 五十嵐一郎
斎藤 和男 芳賀 健一

◎来賓の部 (4名)

同窓会長
高等学校長
同窓会担当教諭
東京鹿瀬会幹事長

茂野 敏郎 様 (中17)
吉川 益男 様
江口 昇 (高3)
波田野亮一 様

◎旧女学校の部 (4名)

岡本 和子 鈴木 節子 佐藤 玲子 小林 早月

◎高校男子の部 (55名)

篠川 恒夫 青木 猛
土田 猛 鈴木多喜男
下野 文幹 新井 康夫
沢出 起允 佐久間英輔
八木又一郎 長谷川宏一
関 和世 佐藤 匡秀
鶴巻 栄二 鈴木 輝雄
石黒 四郎 阿部 敏
寺山 和夫 鶴巻 浩
関谷 雄二 新保 優
滝沢 信喜 桐生 三男
安部 実 今井 英雄
武藤 正昭 小笠原一憲
青木 敏和 笠原 静夫

関 孝世 渡辺 八郎
鈴木 健司 大島惣四郎
金子 鶴男 樋口栄二郎
五十嵐 健 大橋 俊夫
山崎 輝雄 堀 直昭
松尾 正春 関塚 豪
吉井 清 沢出 晃夫
斎藤 収二 間藤 謙一
大橋 貞夫 高岡 雄三
米山 正嗣 鶴巻 静夫
安中 啓作 佐藤 起
笠原 久 木村 安雄
鶴巻 豊 朝倉 武
高岡 英治

(1) 抽選会・景品寄付 (32名)

武藤 三郎 伊藤 勇五 佐久間英輔 佐伯 益一
小田 恕哉 斎藤 和男 大橋 貞夫 篠川 恒夫
青木 猛 関 孝世 渡辺 八郎 鈴木 健司
鶴巻 浩 沢出 起允 関 和世 堀 直昭
山崎 輝雄 青木 敏和 岡本 和子 小島 典子
小沢 幸子 小林 早月 中島 和子 鈴木 節子
佐藤 玲子 深見 洋子 木村 孝子 山西愈佐子
真水 道子 徳永 道子 近藤 燦子 松本 ノリ

(2) 抽選会景品・東京鹿瀬会 波田野亮一 様

(3) ビンゴゲーム「佐伯賞」 佐伯 益一

★なお、当日混雑のため景品受付名簿記載もれの場合
申し訳ございません。悪しからずご了承下さい。

◎高校女子の部 (20名)

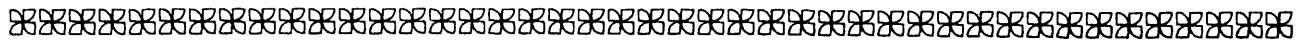
佐々木恵美 向山 律子
木村 孝子 山西愈佐子
宮腰 ヨイ 高瀬 笑子
寺山 征子 片桐 信子
徳永 道子 桑原 トム

高浜つる子 深見 洋子
緒形美恵子 正木美美子
小島 典子 真水 道子
中島 和子 近藤 燦子
松本 ノリ 松尾 恵子

第40回 東京支部大会収支決算書 (単位: 円)

平成9年6月7日 (於、浅草ROXニューオータニ)

収入の部			支出の部		
大会会費		922,000	通信費・準備会費		109,390
男子73名 @10,000	730,000		印刷費		8,222
女子24名 @ 8,000	192,000		大会費		781,588
祝儀		40,000	会場費	560,000	
同窓会本部 様	30,000		持込酒代	51,476	
波田野亮一 様	10,000		余興費	79,092	
			記念品代	41,422	
			来賓土産代	11,700	
			謝礼 (2件)	24,600	
			雑費・交通費	13,298	
小 計		962,000	小 計		899,200
支部一般会計より支出		0	支部一般会計へ繰入		62,800
合 計		962,000	合 計		962,000



ありがとうございました (敬称略)

①平成9年度会費納入の皆さん

◎旧中の部 (55名)

相田和平、相田幸四郎、相田忠亮、伊藤勇五、伊藤秀男
伊藤達郎、板垣文平、片桐賢太郎、市川薫平、岡村嘉志
五十嵐一郎、遠藤 順、落合常雄、亀嶋 謙、熊倉 悟
小田恕哉、小島哲衛、小柳 実、佐久間精一、斎藤和男
斎藤朝之、坂上庸蔵、笠原健二郎、佐伯益一、佐藤豊夫
関谷捨蔵、関山健芳、斎藤誠七郎、高久貞夫、団 順一
千代国一、寺田徳和、寺田徳隣、西山莊平、二平 晶
芳賀健一、福原平八郎、小島真一、藤原良造、松田 博
松田長四郎、丸山一夫、水尾広吉、宮 健三、武藤三郎
山口三郎、矢部五郎、芳原英男、吉田正平、吉田公男
横松宏平、宮本 昇、佐野善吾、奈良泰夫、成海正弘

◎高校男子の部 (119名)

青木 猛、青木敏和、新井康夫、浅井昭男、阿部 敏
朝倉 武、安部 実、安中啓作、五十嵐 健、石黒四郎
伊藤 馥、石本芳雄、伊藤勤吾、今井英雄、梅田久次
大島惣四郎、大西範孝、大橋秀雄、大江佳一、大橋貞夫
小笠原一憲、笠原 久、笠原静夫、亀山知明、川合敏男
笠原大四郎、金子鶴男、加藤清治、川村完爾、岸谷 武
杵渕政海、木村安雄、大橋俊夫、熊倉富次、熊倉芳夫
小池生夫、小日山芳栄、小林末吉、近藤尚志、近藤英洋
近藤洋輝、篠川恒夫、佐々木秀三、笹崎勇三、佐藤匡秀
斎藤收二、斎藤三郎、佐々木秀和、酒井俊昭、佐藤良平
佐久間英輔、沢出起允、沢出晃夫、澤井 昭、佐藤 起
下野文幹、鈴木多喜男、新保 優、鈴木忠雄、鈴木健司
鈴木輝雄、杉山 喬、関 孝世、関 和世、関谷雄二
関塚 豪、瀬倉武志、高岡雄三、高岡英治、高地 彰
高橋研治、高山幹雄、滝沢信喜、田代信雄、塚田 勝
土田 猛、鶴巻 浩、鶴巻静夫、鶴巻 豊、寺山和夫
鶴巻硫三、弦巻 等、弦巻一郎、坪谷次郎、中山 健
中川四郎、二宮文三、畔田昭義、中村雅臣、中川善隆
根本俊夫、長谷川五郎、広田達衛、堀 直昭、堀川俊郎
松尾 貢、長谷川宏一、松尾政春、松尾保司、松田茂夫
松井 孝、樋口栄二郎、増田訓英、丸山貞次、松田輝夫
間藤謙一、三浦靖典、宮沢正由、村川恭平、村川五郎
武藤正昭、目黒義二、八木又一郎、梁取正通、山田一男
山崎輝雄、米山正嗣、吉井 清、渡辺八郎、

◎旧高女の部 (16名)

石井洋子、一氏愛子、内田道子、大橋玉枝、岡本和子
熊倉芳枝、小林早月、近藤昌子、佐藤玲子、新保清子
鈴木節子、田村ミツエ、中野松葉、藤崎トヨ、堀 和子
丸山セイ子、

◎高校女子の部 (61名)

荒井るり子、飯利 幸、市川 俊、大嶋エミ、小沢幸子
緒形美恵子、大野靖子、緒方康子、片柳ムツ、神田正子
大橋マツエ、木村孝子、熊倉悦子、久我マキ、桑原トム
小島典子、近藤燦子、小林満子、佐久間順子、斎藤英子
難賀和子、坂爪圭子、佐々木恵美、斉木明子、佐藤和子
佐野美枝子、佐藤八重、島田淑子、鈴木則子、白石キヨ
田中富子、高尾桂子、高瀬笑子、高浜つる子、高橋睦子
寺山征子、出口テル、徳永道子、竹島幸子、田川百合子
土井トシ、中島和子、中川米子、深見洋子、星野清子
真水道子、升本久子、松本豊子、松本知子、正木美美子
松尾恵子、松本ノリ、向山律子、宮腰ヨイ、山下由紀子
山西愈佐子、山田 良、横溝田鶴、吉井祐江、渡辺厚子
山岸もと子

以上合計 251名 (9月30日現在)

合計金額 ￥753,000円

②平成9年度寄付金納入の皆さん

◎男子の部 (48名) 計 166,000円

17,000円 亀嶋 謙
10,000円 金子鶴男、関谷正中
7,000円 山崎輝雄、笠原静夫、笠原 久、川合敏男
関谷捨蔵、高岡雄三、阿部 敏
4,000円 寺山和夫
3,000円 佐藤豊夫、吉田公男、沢出起允、松田 博
2,000円 伊藤勇五、伊藤秀男、伊藤勤吾、梅田久次
笠原健二郎、小柳 実、亀山知明、鈴木健司
小日山芳栄、西山莊平、芳原英男、篠川恒夫
武藤三郎、武藤正昭、佐々木秀三、笹崎勇三
下野文幹、佐藤良平、弦巻一郎、関山健芳
鶴巻静夫、中村雅臣、塚田 勝、長谷川五郎
横松宏平、梁取正通、滝沢信喜、松田長四郎
松田輝夫、奈良泰夫、吉田正平
1,000円 高久貞夫、大橋俊夫

◎女子の部 (17名) 計 38,500円

7,000円 土井トシ
3,000円 大橋玉枝
2,000円 緒形美恵子、木村孝子、小島典子、岡本和子
小林早月、難賀和子、佐藤玲子、鈴木節子
新保清子、深見洋子、真水道子、佐藤和子
山西愈佐子、横溝田鶴
500円 飯利 幸

同窓会本部総会に出席して

(H9.8.16)

恒例の同窓会本部総会に、今年はちょっと期待しても良いかしら？ と思いながら、昼下がりの村松の街並をゆつくりと『明月』へ向かった。いつものように進学状況等の報告があり、懇親会となる。

去年は佐伯東京支部長の激励が一部の人の気持ちを動かしたかに見えたのだが、その時賛同して、どの様にしたら人を集められるか等 熱っぽく話した方々は出席されていなかったように思われる。ちょっと寂しさを覚えた。そんな中、同期の堰さんが用事があつたにも拘らず、間を縫って出席され、曰く、同期の人達に声を掛けたりしたのだが、八月のこの時期は日が良過ぎて、というのは、丁度夏休み、お盆等で里帰りの親戚の人などが滞在していたりで、出にくい人が多い との事だった。今回堰さんが時間を割いて駆け付けて下さった事は、同期生として本当に嬉しかった。

もう一つ嬉しかった事は、女学校の先輩方、大塚先生、(19回卒) 午陽先生(20回卒) 吉原先生(25回卒) が平成十年度の東京支部大会にいらして下さるとの事、大歓迎いたします。必ずの御出席を心からお待ち致します。

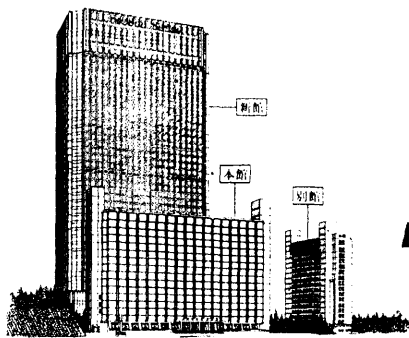


ちょっと良い話

11月2日 故堀哲二氏(中26、元支部幹事)の一周忌の法要に招かれ佐伯支部長と共に御参りに行ってまいりました。村松からこのために来られた関谷正中師(高6)の読経の中、約50人の参会者の献花のあと献杯、直会(なみ)となりました。

見知らぬ人の多い中、私と並んだ支部長の隣には関谷師、楽しそうに話を交わしていましたが私の左は初対面の方でした。話をしているうちにこの方は奥様の和子さん(女22)のお兄さんの田沼紫空氏であることが分かりました。松高こそ出ていませんが旧陸軍士官学校の出で支部長の管轄の松中同級生故茂野甲子郎さんと陸士同期でもあったとのこと。支部長も話に加わり、話は弾みました。村松の話、共通の友人知人の名前がポンポンと出てきたのには驚きました。世の中は広いようで狭いものどつくづく感ずるとともに人と人との出会いが、如何に大切であるかということも再認識することが出来ました。会場はしめやかな内にも賑やかな談笑が続き 故人も喜こんでおられる事と思いました。尚 飾られた遺影のお写真は支部からの寄贈でありとても評判が良かったことを付け加えさせていただきます。(武藤)

平成10年度東京支部大会開催のお知らせ

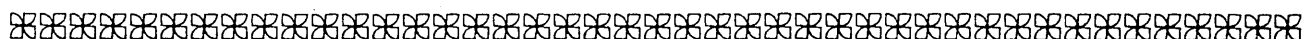


Shinagawa PRINCE HOTEL

平成10年度(第41回)村松高校同窓会
東京支部大会を
6月6日(土)
午後2時より

品川プリンスホテルにて

開催いたします。(4月に案内書送付します)
お誘い合わせの上 多数の方々のご出席を
お待ちしております。



お便りの中から

◎ 第40回松高同窓会東京支部大会では 皆様にお世話になりました。厚く御礼申し上げます。総会のアイデアに富んだ運営ぶりと同窓の皆様の熱気溢れる様に接して、同窓の方々の堅い団結と母校に寄せる熱い思いに感動して帰りました。

また、今回は東京の楽しい思い出の写真を沢山いただき誠に恐縮致しております。松高における私の大切な記録としてアルバムに加えさせていただきます。ありがとうございました。写真を撮ってくださった同窓の方々やお世話になった方々に よろしくお伝え下さい。

村松高校同窓会東京支部の益々のご発展を祈念して御礼のご挨拶とさせていただきます。 佐伯支部長へ

(校長 吉 川 益 男)

◎ 先般 同窓会東京支部大会に参加させて頂き感謝いたします。支部長、幹事様 ご苦労さまでした。毎年の盛会は郷愁の技のみならず支部長の「年1回のお祭りです」など、他に秘訣がありそうで、よい勉強をさせていただきました。同級生を始め多くの皆さんと接する事ができ お互いの健康が励みとなりました。

第二部の酔中歌、遠藤氏の吟は圧巻でした。

「酣歌盛唱臥龍丘 早暁共登緑丘」まさに同胞郷愁の味いっぱいでした。益々の御発展を祈念申し上げます。

(同窓会担当 教諭 江 口 昇)

◎ 去る6月7日の 第40回支部大会に出席させて頂き戴きまして真にありがとうございました。

当日は快晴に恵まれ 村松から遥々茂野同窓会長を始めご三方がお見えになり総勢百有余名、さすがに盛大でしたね。見渡すと皆さん 心からこの会を待ち望んでいたように楽しそうな光景を処々に見かけ嬉しく存じました

これは 平素から支部長を中心にした幹事の方々の努力の賜です。松高同窓会でも全国に誇るリーダー振りを遺憾なく発揮された光景です。

尚 つけ加えて戴きますなら 今後の開催の際には、もう一段と若手の会員の参加をお願いしたいことと、できれば東京大会の時に 招待者の中に主なる支部、例えば 新潟 新津 五泉 村松 津川支部等の代表の方々にも出席して戴き、力を併せて松高同窓会を盛り上げ幹としたらどうかと提案致します。

終りに私事に亙りますが 当日の抽選会において私が一番最後の籤で思いもかけず大当たりで「越の寒梅」を射止めましたこと幸運と言うべく 篤くお礼申し上げます。会の益々の発展を祈ります。

(旧中22回 前赤山会々長 亀 嶋 謙)

◎ 日頃は 松高同窓の活動状況や近況など意欲的に、しかも心温まる内容の、そして コミュニケーションを大切にされた東京支部会報をご恵送賜り 有り難く喜んで読ませて戴いております。

例年の本部総会にも 吾々の同期会にも 何時も馳せ参じていただきますが 佐伯大人が出席されるとみんな意気軒昂になります。

これは松高を愛するが故の そしていやがうえにも、優秀校として発展させるための強い願望からであると、敬意を表しております。

会の益々のご発展を祈ります。

(旧中22回 在村松 棚 橋 嘉 一)

◎ その後 お変わりございませんか

先般の同窓会大会では大変お世話になりました。

また 写真を送って頂き 当日を思い出しております。

写真を撮って下さった武藤様にお礼をと思いましたが、住所が分からず失礼しております。お会いした時よろしく申し上げて下さい。

(高10回 在村松 片 桐 信 子)

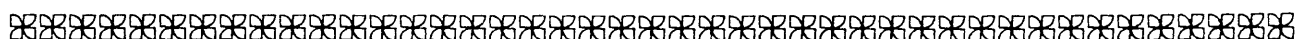
◎ 第40回大会に出席して 手作りハガキを頂きました。主人と二人「絵手紙の会」に入会しており ハガキの紙質のおもしろさに出会い 花を描いてみました。こんなハガキが欲しかったものですから とても嬉しかったです。

会報の面白さも感じて 思いがけない友に出会う楽しみも年と共に強く感じ始めております。

ご努力 感謝いたします。

(高8回 新 井 久 代)





◎会報23号ご送付賜りありがとうございました。

毎回楽しみにしており、なつかしい方のお名前や、寄稿
お便りなどワクワクして読ませていただいております。

お便りのページに私の文面を掲載いただいたおかげで
新井さん(高5)から連絡がありました。支部大会で沢
出さんと逢って……などと、懐かしい電話をいただき
ました。それが縁で松高・卓球部OBが集まることになり
話がトントン拍子に進み、村松を会場にとの事で村松
には卓球部OBがいなく私が引受けることになりました。
日時・会場も決まり今回は高4～7回卒の人達で行うこ
とになりました。皆さんどんなになったのでしょうか？
今から楽しみです。会報23号が今度の会合のキッカケ
となりました感謝しております。

(高6 在村松 大 関 慶 子)

◎本部の総会を若い方々に集まっていただき、いろいろ
相談しようと思い、40名の方にご案内いたしました。
ところが出席して下さった方は1名だけ。結局、何も出
来ず例年通りとなってしまいました。この地元ではやは
り駄目なののでしょうか？

次の東京支部大会には是非参加させて頂きたいと思っ
ております。お礼が遅くなりましたが、写真をお送りく
ださいまして有り難うございました。早速、アルバムに
貼っておきました。

(本部事務局 在村松 伊 藤 ヒ サ)

ちよつと良い話

営団地下鉄 茅場町駅からのできごとです。
私の座っている向い側のシルバー席の前で二人
の初老の男性がなにか言い合っていました。

喧嘩ではないようです。見ると二人の前の座
席がひとつ空いていました。お互いに席を譲り
合っているのです。譲り合いは果てしなく続い
ております。見かねたのか横のご婦人が立ち上
ろうとしましたがそれを手で制し なおも続け
ております。しまいには生年月日で決めようと、
いうことになりました。どう見ても年上の人と
思ったハゲの人が年下だったのです。白髪の人
は次の駅だからと言って まだ座りません。
私が西葛西駅で下りるまで とうとうその席は
空いたままでした。他の乗客は笑いながらこの
やり取りを見ていました。お互いに一杯 入っ
ていたようです。どちらも大正生まれでした。
頑固さも程々になると言うところでしょうか。

(伯)

ちよつと良い話

産経新聞10月28日付朝刊投稿欄に近藤 英洋氏
(高7回卒)の「なぜ訪朝せぬ土井社民党々首」と
囲みで掲載されていた。「常に人権尊重を唱え 弱
者の味方を任じている社民党の動きがさっぱり分か
らない。湾岸戦争に際し勇躍 イラクのフセイン大
統領を訪問し停戦を申し入れた土井党首が日本女子
中学生を始めとする各拉致疑惑について なぜ直接
北朝鮮の金正日総書記を訪問し これらの問題を解
明しようとししないのか？日本の国家主権と日本人の
基的人権侵害の疑いもあるのに」というのが要旨で
ある。正に簡明卒直、大方の日本人の気持を代表す
る正論である。(伯)

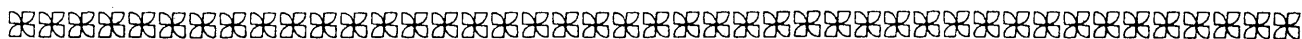


懐かしや故郷 里帰りで満喫

四十年ぶりにやっとゆっくり里帰りができました。その
間に法事があり、姪たちとキャーキャー話したり、笑っ
たり、食べたりとすっかり娘時代に戻ったような楽し
ひとときでした。さらに妹夫婦の好意でドライブ。行く
先々はとても感慨深いものでした。高校卒業と同時に故
郷を後にしたが、当時はまだバスもなく、自家用車など
勿論なく、通学は徒歩か自転車、冬はツルツル滑る雪
道を一里近く往復したものでした。道路状態が良くなり
一人一台くらいのマイカーの普及は目覚ましく、修学旅
行で一泊した寺泊などその日のうちに帰れるなんて…。
カルチャーショックを受け、平成浦島太郎の心境でした
だって思えば半世紀近くも前のことで当然と言えば当然
ではありますが。ところで一番楽しかったのは岩室村で
す。まだまだ自然が豊かで空気も雰囲気もとても好感が
もてました。誰にも親切な人々。どこからか岩室甚句も
聞こえてきそうな長閑さでした。少し走らせれば良寛の
里や弥彦神社など昔行きたくても行けなかった観光地が
すぐそこがありました。さらにホテルのもてなしや従業員
も好感が持て、今度は同級生に呼び掛けて岩室温泉で
同級会を開きたいと内心想っております。九州の暑さに
参っている私ですが、あの時の思いに浸ることが唯一の
暑さ凌ぎになっています。

平成9年 夏 記

大橋 マツエ(高10)福岡県在住



旧中22回卒 同期会

亀 嶋 謙

昭和12年3月、旧制中学を卒業して満60周年を迎えたことを記念して、平成9年6月1日 新潟県岩室温泉「富士屋」で久々に一泊の同期会を催した。

当日の出席者は下記の12名で幹事は新潟地区の新田見、鍋谷の両氏であった。(敬称略)

伊藤省三、稲村 豊、亀嶋 謙、近藤力雄、斉藤信治、佐藤洋平、高岡八郎、高橋忠夫、田代正夫、鍋谷昇一、新田見周三、梁取豊次。

私達は昭和7年(1932年)4月に入学した。入学時は百余名であったが、その後に病死、転校、中退者があって卒業時には78名であった。60年後の現在、生存確認者は24名で三割に減ってしまった。先の大戦で戦死された人、病死者も近來多くなかったからである。生存者の年齢もすでに「喜寿」を越えた。その故もあって当夜は懐旧談しきりであった。

翌日は弥彦神社に詣で、処々を散策し最後は新潟県庁18階の展望台であった。お互いに手を握り、励ましあって、次回は2年後、80才の「傘寿」を目標にしての再開を約して別れた。なお、当日は欠席であったが同期

には下記の諸兄がおられる。

笠原幸雄、浦野(久住)祐義、熊倉健児、斉藤敬介、佐野善吾、村上(沢田)哲雄、式場 明、中山 登、萩元公、本田(松田)信三郎、吉沢 淳、渡辺旦治。以上



旧中26回(昭和16年)卒同級会

平成9年6月24日、越後湯沢駅から徒歩二分のホテル白銀閣「華の宵」において一年振りの同級会が開かれた。

参加申込は20名と聞いていたが、直前になって3名が欠席と聞かされ残念な思いはしたが、今回初参加という北沢、福原両氏が東京圏から出席された。卒業以来の再会を果たした喜びは感動的な光景であった。

今回は、村松在住の同期が全員幹事になり協議一決、皆さんに喜んで貰えることを念じながら企画した。いつの間にか、74~75才となり人生の中で最も輝かしい年代を迎えた私達が行く末を語り合い、自己を見つめてみませんかという案内状が届いた。気持ちの上では元気だと思っても、来年参加できるかどうか自信がない。足腰の動くうちは何とか参加したいと思って出かけたが、今にして思うと心から満足のいく集いであったと幹事諸氏に感謝しているばかりである。

6時半からの宴会までの間、幹事代表の森山氏が欠席者からの返信ハガキの紹介や、明日の観光プランの提案来年の幹事の話が進められているうちに、写真屋が特機しているとの連絡を受け議事中断して宴会場に移動した。「皆さん背中が丸くなっていますよ。思い切って胸を張

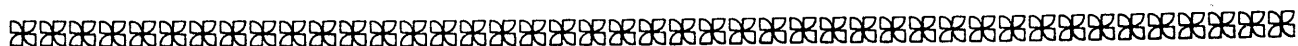
るようにして下さい」と声をかけられ各自姿勢を直したところを透かさずシャッター。出来上がった写真は御覧の通りの謹厳実直の面々ばかり、宴会風景を思い出すと全く別人のような気がするが、日頃の生活では真面目な人生を過ごしていると信じているし、そんな友達に恵まれている自分を幸せに思ったり、裏切ることはないように自戒し続けなければならないと思っている。

宴会は、福島県から車で駆けつけた古俣氏の乾杯の音頭で始まり、二人のコンパニオンが盛り上げてくれて談笑の渦が広がりカラオケも賑わいに拍車をかける。

宴会の時間は瞬く間に過ぎ楽しい雰囲気は部屋へ移し二次会となった。敷かれていた布団を片付けての会場は些か混乱気味で、12時過ぎると流石の猛者も疲れのせいか元気もなくなり自然解散になった。

平成10年の幹事は、角田、窪田の両氏が五泉在住の諸氏と共に引き受けてくれることになり大いに期待している。年々老化現象らしき兆候を実感するようになり、お互い健康の維持に万全を期して一人でも多くの参加者があるように心がけ、幹事の熱意に応えたいと思う。闘病生活で頑張っている友人も何人かおり、一日も早い回復を心から祈りながら所感にしたい。(武藤三郎 記)





旧中 27 回 同期会

旧中 27 回卒（昭和 17 年）の同期会が 10 月 7 日、新潟県笹神村 五頭山温泉郷の一つ 今板温泉の一軒家「湯本館」で開催された。当日午後 2 時半、新潟駅南口からホテル迎いのバスに乗り、途中水原町の瓢湖などに立寄り、運転手さんに五頭連峰の説明を聞きながら宿へ向かい。玄関では従業員全員の歓迎をうけ一同ご満悦。

定刻、まず物故会員に黙とうを捧げて冥福を祈った後今回の当番新津地区の幹事（加藤、石川、白倉）を代表して加藤幹事が歓迎の挨拶及びこの宿を設定した経過等について報告、一同納得 賛意を表した。

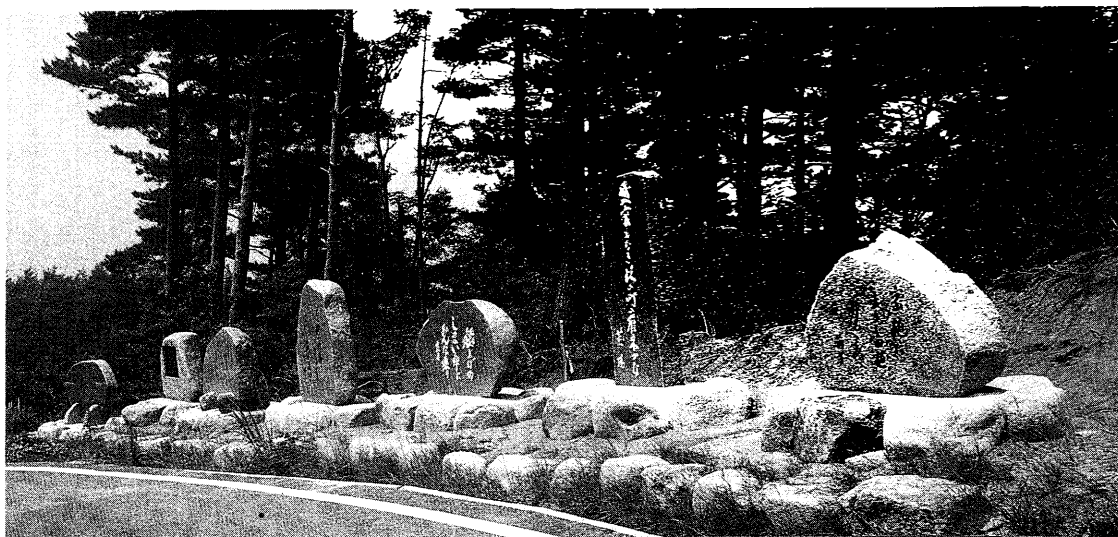
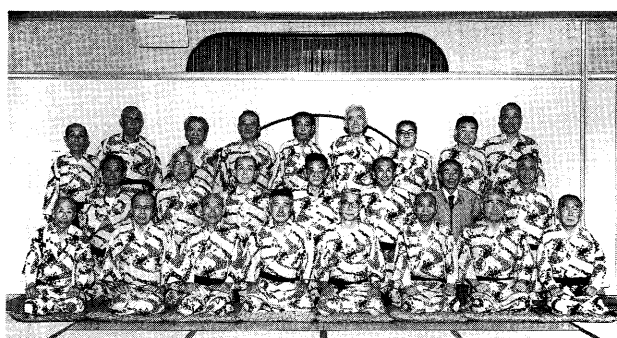
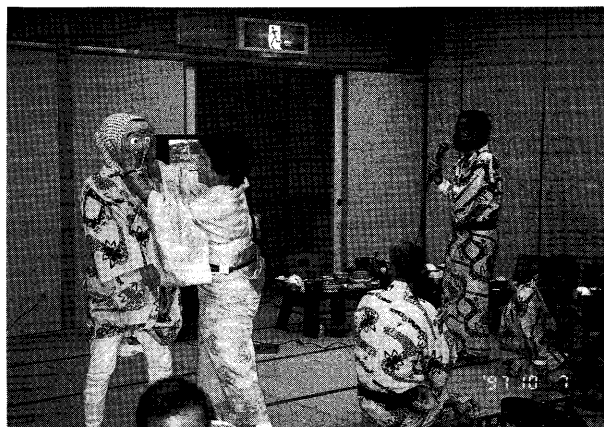
同窓会東京支部長との理由で私が指名され謝辞 乾杯のあと懇親会となり 出湯温泉から来た三人の芸者衆が華を添える。懐かしさも加わって それはそれは大変な賑いとなる。宴が終わっても廊下で囲碁に遊ぶ者、持病を自慢する者、一晩中語り合う者など とても古稀を超えた者達の集まりとは思えぬほどの愉快な一夜であった

翌日 再び宿のバスで新潟駅へ向かったが特に遠回りして「やまびこ通り」をとおり 250 余の詩情あふれる歌碑や句碑を車窓から展望 五頭連峰と調和一体となったその素晴らしさに心が洗われる思いがした。

詩歌の道を歩む人、関心のある人には是非一見の要があるとお奨めしたい。

バスは順調に走り正午新潟駅に到着、そこで解散。当日、遠く 東京 横浜 千葉 福島 各地から参集する者合わせて出席者計 24 名であった。

来年は新潟地区が当番となる。出席常連の欠席者を加えれば 30 名を超す筈。「乞う ご期待を」と言う処である。各位のご健在を祈る。 （佐伯 記）



高校第4回同期会（昭和27年卒）

平成9年10月24日（金）に、通算？回目の同期会が開催されました。会場は、湯沢温泉の川端康成が小説（雪国）を執筆した宿、高半ホテルでした。往年の美女20名と、昔の美少年49名の総勢69名が集う大盛会となりました。かなりの回数を重ねて来ている同期会ですが、今回が初参加の方々が十数名おられ、まさに45年ぶりの挨拶が繰り広げられました。少年少女時代の面影が濃く残っており、一目で相手の名前が呼びあえるケースがあれば、その反対に名乗りあわなければならない組み合わせには時の流れの重さをズシリと感じます。滋賀県安土町から車で、文字道り馳せ参じた高岡洋一氏

が初参加者と、「最遠距離参集者」となり、同氏の発声で「越の寒梅」で乾杯致しました。村松町在住で現役の住職・荒木快英氏の名司会のもと、夜の更けるまで懐かしく、和やかな会が続きました。それにしても69名の大会は、永年にわたり東京地区同期会を推進して来られた故木村時也幹事長の御遺徳と、このたび発展させた統一同期会の会長を快く引き受けて下さった唐橋美明氏同氏夫人で事務面を支えられた陽子さん、女性世話役を務められた斎藤英子さん、今までの湯沢地区開催に御尽力された田村俊彦氏、実務面で支えられた波多輝一氏・菊地重雄氏・今井保雄氏・斎藤健一郎氏等の幹事諸兄姉の御努力の賜でした。誠にありがとうございました。

次回以降も大勢で、元気に参集しましょう。

鈴木 健司（高4回）東京在住



高7回3年3組クラス会（深見洋子）

第7回卒 3年3組クラス会が去る10月25、26の両日、月岡温泉『冠月』にて開催されました。今回は『月岡』という ちょつと交通便の良くない場所だったので、男性群が女性を手分けして送り迎えして下さる優しい気配りに『幸せ』を覚えつつ現地へ集まりました。中には旦那様に送られて来る方 奥様を連れて来られて実家訪問を兼ねられる方など心優しい人柄にも触れる事が出来、年月を感じると共に良い風景だなと気持ち

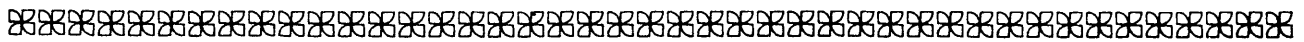
ちの安らぐ思いでした。

恩師長谷川先生も健康を快復されて久しぶりの御出席で、一人一人に近状などお聞き下さり、答える姿には年を忘れ昔の生徒に戻ったようなちょつとした緊張が見られ、そんな光景もまた良いものでした。

先生お帰りの後は、雑談 カラオケに花が咲き、お酒は美味しく温泉も良く、本当に楽しいひとときでした。次回は3年後に決定、元気で再会いたしましょう。

いつもお世話下さる幹事さん、心から感謝いたします。





新潟県高校野球熱戦譜より

(ベースボールマガジン社編)

新潟県高校野球連盟は、平成8年に創立五十周年を迎え、これを記念して「新潟県高校野球熱戦譜」が平成9年7月25日ベースボール・マガジン社から発行された。

この五十年の間、県大会で優勝した中から17校を抜粋し当時の監督、選手に真実を綴ってもらい、「新潟県高校野球史」や毎年発行の「新潟県高校野球の記録」を参考に掲載したものである。

昭和28年(1953)第35回全国高校野球選手権新潟県大会で、村松高がはじめて夏の大会を制した。当時選手として活躍された斉藤(佐藤)徹志氏(高6、元・村松高校野球部監督)が資料を集め、当時の選手から記憶を引き出して、本書に15ページにわたって掲載している。本文から一部分を抜粋し紹介したいと思う。

…はじめに…

戦後の一回大会は、昭和21年7月26日に開幕した第28回全国中等学校優勝野球大会新潟県予選である。新潟市営白山球場において参加チームわずか9校で、これが戦後の新潟県の高校野球のスタートとなった。記念すべきこの大会は、新潟中が柏崎中を14対1で破って優勝している。両チームは信越大会に出場し、松本商、松本市中と対戦、大差で敗れている。

昭和23年(1948)第30回大会は、この年に実施された学制改革に伴って全国高校野球選手権大会と改称され県大会には、上中越地区から10校、下越地区からは11校が参加した。決勝に残ったのは、新潟高と新潟工であったが、信越大会で両校共1点差で長野県勢に敗れた。かくして高校野球は年毎に参加校が増え昭和33年第40回大会は記念大会として、一県一代表を甲子園へ送ることが出来る絶好の機会が訪れ参加校は39校となった。この大会では新潟商が甲子園へ出場したが、一回戦で鳥取西高と対戦、1対2で惜敗している。

昭和49年(1974)は、画期的な年となった。高野連が全国の地区割を変更し、甲子園への代表校は一県一校となり、県大会優勝校がそのまま甲子園の土を踏めることになったのである。(北海道・東京都は2地区)

…第35回大会(昭和28年)…

昭和28年の地区予選は、中越地区の7月18日を皮切りに熱戦の火ぶたがきられた。参加校は上越地区15校、中越地区11校、下越地区17校で合計43校と年ごとに増え大会も白熱していた。

この夏は雨の日が多く日程が遅れ、村松高の初戦は7月21日、下越地区二回戦から出場し、球場は新潟鉄道監理局のグラウンドだった。監督も常任の指導者もないチームだったが、この大会では、監督に野球部OB、東間清吾氏(高3)を迎え体制が整った。

…ベンチ入り登録メンバー…

(部長)安中 猛(教頭・旧中6)、(監督)東間(高3)、(キャプテン)武藤、(マネージャー)山崎。

(投)宮崎、(捕)明間、(一)塩原、(二)加藤、

(三)棒、(遊)阿部、(左)武藤、(中)沢出、

(右)佐藤、(控)金子、斉藤、白玉、川瀬、渋谷、

堀内。選手は三年生9名、二年生6名であった。

このメンバーで、体格や技術は特筆すべきものはなかったが、一つだけ他校に抜きんできたところがあった。全員が百米11秒後半から12秒前半で走れる脚力があり、足の速さが対戦校へプレッシャーをかけていた。

…対戦成績…

一回戦は不戦勝で、優勝候補の北越商が新津高を下して村松高と対戦することになった。前年の夏、県大会一回戦でわが校は3対5と惜敗した宿敵である。

予選とはいえ、白熱したゲームであった。延長10回表村松は無死で二番加藤が二塁打を放ち、三番阿部の送りバントで三塁へ進み、四番宮崎のレフトへの犠牲フライで加藤が決勝のホームを踏み、前年の雪辱をはたし県大会へと駒を進めた。

村松高	2 0 0 0 0 1 2 0 0 1 = 6	
北越商	0 0 0 1 0 4 0 0 0 0 = 5	(延長10回)

…県大会…

地区予選を勝ち抜いた十六校による県大会は、地区予選が雨で順延となったため、7月27日から三日間にわたって柏崎高のグラウンドで行われた。学校のグラウンドのため外野をパネルで囲み、両翼85メートルと狭い球場でプレーすることとなった。

大会二日目、7月28日第二試合で対戦相手は長岡工である。村松は3回表、先頭の沢出が初球をセンター前ヒット、続く佐藤・加藤のバントがいずれも内野安打となって無死満塁のチャンスをつくった。すかさず三番阿部が三遊間を抜き二者を迎え入れた。この回打者11人を送って大量5点を奪い、4回にも四番宮崎の2点本塁打などで4点を追加した。

村松の先発投手宮崎は、力まずに楽々と投げ4回からは一塁にまわり、リリーフした斉藤も2イニングを無失点に抑え5回コールドで大勝した。

村松高	1 0 5 4 1 = 11	
長岡工	0 0 0 0 0 = 0	(5回コールド)

…準々決勝…

大会三日目、7月29日は朝から真夏の太陽が照りつける中、準々決勝四試合が行われた。対戦相手は春の県大会優勝校、高田高であった。新聞ラジオは、北越商が敗退したあと優勝候補の筆頭とし、村松は勝ち目薄く高田が断然優位であると報道していた。

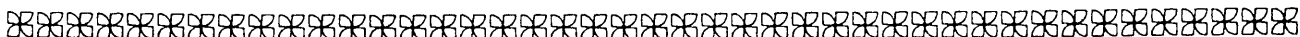
村松は一回表、一死後二番加藤が痛烈なショートゴロを打ったところ、高田の遊撃手がトンネルした。そのボールをレフトがはじき外野フェンスまで転々とし、その間に加藤は三塁まで達し、三番阿部の左中間への大きな犠牲フライで先制点をあげた。その裏、高田は一塁にランナーを置いて大会屈指の強打者、四番加藤がレフトの欄を越える2点本塁打を放ち逆転した。

しかし村松は2回、一死二、三塁のチャンスに七番棒のバントを高田の捕手渡辺が一塁へ悪送球して二者生還し再逆転、更に6回1点を追加し押しきった。

その結果、参加43校の中から、新潟南高・新発田高・明訓高・村松高の下越四校が、準決勝へと進むと同時に新潟県代表として信越大会へ出場することになった。

村松高	1 2 0 0 0 1 0 0 0 = 4
高田高	2 0 0 0 0 0 0 0 0 = 2

信越大会のため、県大会準決勝と決勝は8月9日に延期。



…信越大会…

かくして村松高は甲子園への出場をかけ、信越大会へと駒を進めた。あと3勝すれば甲子園へ行けるところまで来た。しかし甲子園への厚い壁、長野県勢が立ちはだかっていた。長野県の代表四校は、堀内・木次（元・巨人）等の超高校級が何人かいる松商学園、早稲田大学の三塁手小森（松本市高OB・元近鉄）が監督として指揮をとり必勝体制の松本市高、東信地区から古豪小諸実業諏訪地区の強豪・岡谷南高と実力校が勇躍新潟へ乗り込んで来た。

村松は8月1日、新潟市営白山球場において第三試合で、松本市高との対戦となり34度を越す猛暑のなかで地元の大声援をバックに白熱した試合となった。

松本野口投手の大きく打者の袖下あたりから浮き上るアンダースローが打てず苦心したが、6回沢出がライト線に二塁打を放ってチャンスを迎えたが、バント失敗で併殺となり得点出来なかった。しかし7回には中前安打で出た阿部が宮崎のバント、武藤の打ったショートゴロを飯沼が後方にそらして阿部がホームイン、先制点をものにした。

松本は村松宮崎の直球が打てず得点出来なく、7回裏投手の疲れにつけこんで二番西村が内野安打で出塁、三番中条四球で走者一、二塁となり村松は斎藤をリリーフに送った。しかし斎藤は日頃の球威なく四番上原、五番内ヶ島に連打され逆転を許した。松本は8回にも四球とダブルスチールで1点追加した。村松は9回表、加藤と宮崎の連続安打と重盗で1点差にせまったが、武藤、明間が凡退し敗れた。（信越代表は松商学園）

村松高 0 0 0 0 0 0 1 0 1 = 2
松本市高 0 0 0 0 0 0 2 1 x = 3

…県大会準決勝…

信越大会で敗退したあと、8月9日、順延になっていた県大会の準決勝・決勝が午前9時から新潟市営白山球場で行われた。準決勝・第一試合は、新潟南高が新発田高を7対6と下し決勝へ進んだ。

村松の相手明訓高は、前年秋の大会に新発田球場で延長22回、延々6時間におよぶ激闘のすえ、捕手明間の三塁悪送球で惜敗した相手である。

村松、明訓とも相手投手のボールを打ちあぐみ、8回を終わって両校とも得点無く緊迫した投手戦がくり広げられた。しかし最終回、村松は二番加藤が無死四球で出塁、三番阿部がバントで送り四番宮崎のライト前ヒットで一、三塁とチャンスを迎え、五番武藤のショート強襲ヒットで三塁から加藤が生還サヨナラ勝ちした。投手が好投し明訓に三塁を踏ませなかった。

この結果決勝戦は新潟南高と村松高の対戦となった。

明訓高 0 0 0 0 0 0 0 0 0 = 0
村松高 0 0 0 0 0 0 0 0 1 = 1

…県大会決勝…

村松は1回先頭の佐藤がデッドボールで出塁し、二番加藤のバントを新潟南の投手高橋がファンブルして二塁となり三番阿部の送りバント成功し一死二、三塁とした。このチャンスに、四番宮崎がセカンド内野安打を放ち三塁ランナーが生還、先取点をあげた。なおも一死一、三塁で五番武藤の左中間犠牲フライで三塁ランナー

加藤がホームを踏み、2対0とした。

新潟南は5回二死満塁のチャンスに好打者一番岡島がピッチャーフライに倒れ無得点に終り、村松は6回から宮崎をリリーフした金子が、コントロール良く打者のタイミングをはずし、4イニングを0点に抑え新潟南高をシャットアウトで破り、参加43校の頂点に立った。

新潟南 0 0 0 0 0 0 0 0 0 = 0
村松高 2 0 0 0 0 0 0 0 x = 2

…東北六県大会…

8月15日から二日間、秋田県本荘町（現・本荘市）鶴舞球場で行われた、第三回東北六県優秀校野球大会に招待された。羽越線で本荘駅まで行くのに新津の旅館に半泊し、夜中12時頃の夜行列車で遠征した。

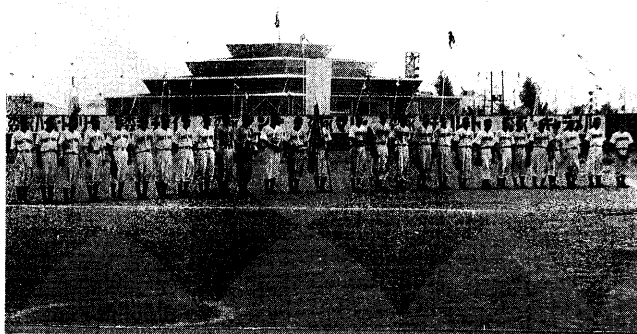
他県の主な出場校は、能代高・金足農高・角館高・遠野高・東奥義塾など、後に甲子園へ出場した強豪ばかりで、大きな体格と学校名で最初は気おくれしたが、試合は村松が2勝0敗で優勝カップを手にした。試合終了後汽車の発車まで時間がなく、球場から荷物用トラックで本荘駅まで送ってもらった。

…おわりに…

8月16日の東北大会を最後に、三年生は野球部生活を終えた。この夏、勝ち進んだために夏休みもなかったが代わりに、野球を通して集中力を養い、団体生活を体験し、他人の失敗を許せる心も身についた。高校入学から二年五ヶ月の間に貴重な体験をさせてもらった。共に汗を流し、励まし合い、泥と涙にまみれた思い出多い昭和28年の夏も遠い昔のこととなってしまった。

「新潟県高校野球熱戦譜という本が発行されたので手渡したい」と、宮崎君（投）から8月に入って間もなく電話があった。8月16日夜に新潟で会う約束をし当時のメンバーを集めてもらう事にした。キャプテンの武藤君はじめ都合が悪い人もいて結局、三浦節郎君（高6）の経営する飲食店「万平」で、宮崎・斎藤（佐藤）・捧の三君と三浦君も加わり乾杯の後、本書をもらった。村松分、15ページを任された斎藤君は「原稿依頼から締切りまで2ヶ月足らずで、資料も不足しており当時の記憶を仲間から聞き出したりしたが、時間の余裕がなく大変苦労した」と。それでも、とにかく書物になって出版され後世に残るものが出来たことに、斎藤君はじめ関与して頂いた各位に感謝しております。

沢出 起允（高6）支部常任幹事



左・優勝旗を手にした村松高ナイン（右は新潟南高）

卓球部OB会

新井泰夫（高5）支部幹事

平成 9 年 8 月 17 日（日）村松町「伊藤屋」で七名の出席のもと松高卓球部OB会を開催した。

この度の開催については、大関慶子さんの支部会報 23 号へのお便りが縁で話が進み、阿部君と大関さんに幹事をお願いして開催することが出来た。

当日は、夏には珍しくさわやかな好天に恵まれ十二時半に村松駅前に集合、伊藤屋のマイクロバスで母校へ向かった。レンガ造りの正門、松並木は昔の面影を残していたが校舎は改築され、時の流れに一抹の淋しさを感じた。45 年振りの再会であったが躊躇なく皆さんに声をかけることが出来たし学生時代の面影が十分残っていた。

三時より伊藤屋で郷土料理、地酒を味わいながら、各自の近況報告と昔話で瞬く間に時間が過ぎ、松高時代の気分を満悦しながら二年後の再会を約束し解散した。

（幹事の方々には大変お世話になり感謝しております）

◎出席者は下記の通り（敬称略）

波田野貞夫（高4） 阿部 務（高5） 山田 秀暢（高5） 新井 泰夫（高5） 増井 信（高5） 松田 輝夫（高6） 大関 慶子（高6） 以上七名



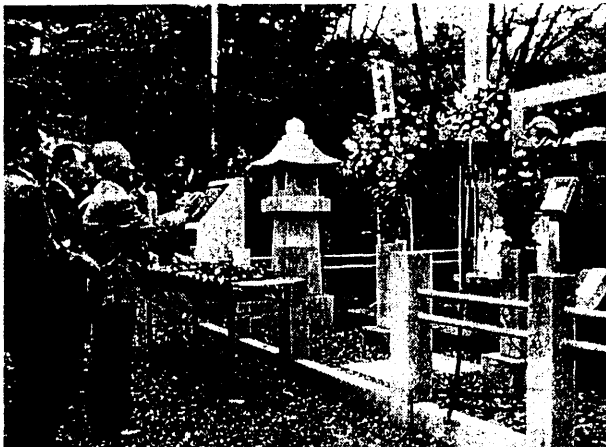
湯 田 報

1997 年（平成 9 年）10 月 17 日（金曜日）

☆

若い命 悼む心あせず

慰霊碑の前で開かれた陸軍少年通信兵の慰霊祭
中瀬村松町の村松公園



陸軍少年通信兵慰霊祭 村松

高齢化が進み 継続に賛否も

第二次大戦末期に陸軍少年通信兵学校が開校され、中瀬村松町で戦没した通信兵の慰霊祭（全国少通連合会主催）がこのほど行われた。

同町の村松公園内に立つ慰霊碑前で開かれた式典に、人余りの通信兵に黙とうをささげ、山田善三郎同連合会長らが南方戦線や中国大近くが参列。戦没した八百一陸で若い命を落とした仲間を悼む。

たちに哀悼の言葉を送った。

式典後、参列者は碑の前に菊の花を二輪ずつ手向け、手を合わせた。碑の周囲では握手を交わしながら再会を喜ぶ姿や同期が集まって記念撮影する光景も見られた。

少年通信兵制度は昭和八年に始まり、昭和十八年に村松と東京に陸軍少年通信兵学校が開校され、全国から集まった十五歳前後の若者が三年間、教育を受けた。昭和四十五年、同公園内に碑が建てられ、両校を兼立つて戦地で命を落とした通信兵をしのぶ慰霊祭が始まった。慰霊祭は五年に一度のペースで開かれ、戦後五十年を迎えた一昨年を一区切りとして以後は式典を簡素化して二年に一回、行うことになった。

高齢化が進む会員の間には慰霊祭の定期開催は終わりにすべきだとの意見があ

会報 22 号に「戦没少年通信兵の碑」と題して、佐伯益一氏（旧中 27）の寄稿を掲載してあります。

また、23 号では「少年通信兵の碑を読んで」と、八木又一郎氏（高 7）の感想文も紹介されています。

る一方で「自分が死ぬまでは戦友の霊を慰めたい」と継続を望む声も。
山田会長は「地元村松のおかげで立派に碑が守られているが、慰霊祭の今後をどうするか考える時期に来た」と話していた。

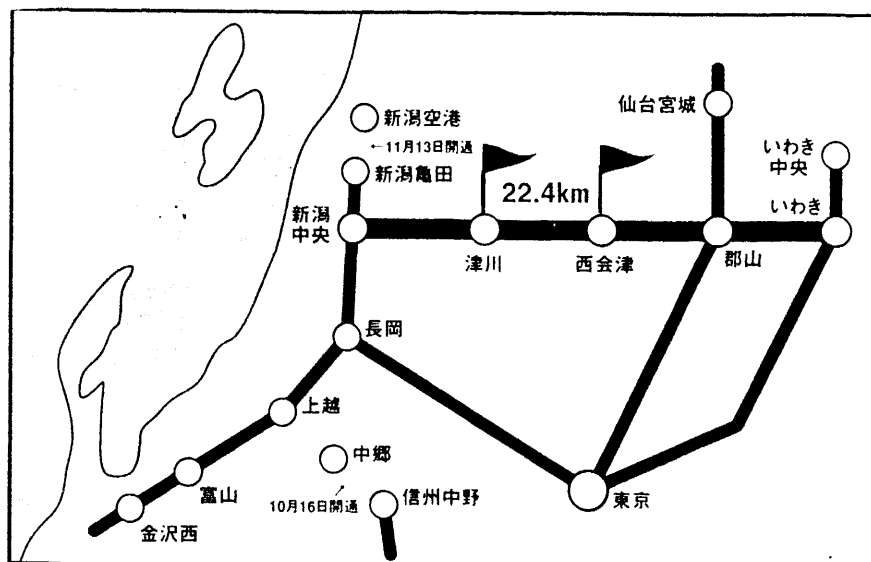
日本海側と太平洋側を結ぶ新動脈の誕生で、新潟・福島両県が隣接県として新しい交流時代のスタートになった。観光、空港、港湾、産業、教育など東京一極集中からの脱却できるかどうか、日本中から注目をされることになるだろう。全長=212.7Km（新潟日報より）

磐越自動車道が全線開通したため新潟交通と会津バスが10月2日より、新潟万代バスセンター・新潟駅前から、会津若松駅前まで高速バスを運行している。

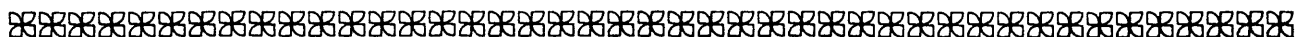
お問い合わせ バスセンター案内所 TEL 025-246-6333

平成9年7月5日開催された幹事会において下記の方々が新しく役員を委嘱されました。

役 職	氏 名	卒業回数
常任幹事	八木又一郎	高7回
幹 事	新井 康夫	高5回
”	金子 鶴男	高5回
”	向山 律子	高5回
”	山崎 輝雄	高8回



上越新幹線・ガーラ湯沢駅に温泉施設「ガーラの湯」が、12月6日開設された。GALA湯沢スキー場に隣接し「駅を出たらすぐゲレンデ」が売り物だったJR東日本にとって「改札口を抜けるとそこは温泉だった」もヒットするか？（朝日新聞より）



1997年の出来事

- 1月・正月三ヶ日初詣の出人は全国で、8,672万人
 - ・10日の円相場、1米ドル=115.78円
 - ・東証一部平均株価 10日= 17,303.65円
 - ・ロシアタンカー能登半島西方沖に重油流出
- 2月・円安進む……1日、1米ドル=122.12円
 - ・経済革命倶楽部（KKC）350億円を集め破綻
 - ・佐渡付近海上に多量の木材流出
- 3月・秋田新幹線（こまち号）開業
 - ・三池炭坑 124年の歴史をもって閉山
 - ・北越急行（ほくほく線）開業
 - ・選抜高校野球大会に和歌山県立日高高校中津分校が分校初の甲子園出場
 - ・五十鈴建設倒産
- 4月・消費税率、5%になる
 - ・今世紀最大級のヘルボップすい星、日本に接近
 - ・選抜高校野球優勝校は奈良県天理高校
- 5月・英総選挙で18年ぶりに労働党が政権握る
 - ・9日、秩父市で気温33.9度を記録
 - ・33億円で補強の巨人、開幕から31まで、18勝26敗
- 6月・国連の白書によると世界の総人口、58億5000万人
 - ・各都道府県でカラ出張等で不正支出が発覚
 - ・21日「新潟館・ネスパス」表参道にオープン
 - ・神戸市で中学生が小学生を殺害
- 7月・1日、香港が15年ぶりに中国へ返還された
 - ・5日（土）最高気温、東京37.7度を記録、越谷市40.2度、練馬区と所沢市では39.1度と猛暑
 - ・ゼネコン中堅の東海興業、多田建設、倒産
 - ・西日本大雨被害続出し鹿児島県出水市で土石流
 - ・6日、東京都議選の投票率は過去最低、40.8%
 - ・18日「横浜みなとみらい21」地区に複合商業施設「クイーンズスクエア横浜」OPEN
- 8月・全国高校野球は、智弁和歌山高が優勝
 - ・31日パリで英国のダイアナ元皇太子妃交通事故死
 - ・31日、日産生命保険が経営破綻し倒産
- 9月・11日、第二次橋本内閣誕生、総務長官に佐藤孝行
 - ・氏を氏名したが22日辞任
- 9月・7月封切アニメ映画「もののけ姫」配給収入で邦画新記録となり、12月まで上映を続ける
 - ・18日、ヤオハンジャパン倒産
 - ・30日、地下鉄・南北線は四ッ谷→溜池山王までまで延伸運行
 - ・少子化に伴い2006年まで「都立高校」30校削減
- 10月・1日、長野新幹線（あさま号）開業
 - ・磐越自動車道（新潟中央・いわき間）全面開通
 - ・1日、酒税改定しウィスキー引下げ、焼酎引上げ
 - ・福岡県に古賀市誕生（全国で670番目の市）
 - ・越後証券（本店、新潟市）解散
 - ・プロ野球日本シリーズ「ヤクルト」優勝日本一
 - ・14日、京都共栄銀行破綻、幸福銀行へ営業譲渡
 - ・96年の個人自営業者の所得申告もれ 1兆4千億円
 - ・10月の東京地方は106年ぶりの少雨を記録
- 11月・3日、三洋証券倒産
 - ・証券不祥事で大手証券会社の逮捕者20余名
 - ・8日、北朝鮮から日本人女性15名里帰り第一陣
 - ・16日、日本サッカー98年ワールドカップ出場なる
 - ・17日、北海道拓殖銀行経営破綻
 - ・17日、エジプトで観光客銃撃され6名死亡
 - ・21日、山一証券倒産（負債総額 3兆2千億円）
- 12月・15日、東京湾アクアライン（15Km）開業
 - ・19日、都営地下鉄、練馬→新宿（9.1Km）開業

編集後記

新年おめでとうございます。

本年も会員の皆様にはご健勝で益々発展されます様にお祈り申し上げます。

昨年は何と言ってもジョホールバル（マレーシア）で熱闘の末イランを下し日本サッカー界の悲願であるワールドカップフランス大会への出場権を得たことである。サッカーを良く知らない人達さえも、夜遅くまでテレビ観戦し、二万人のサポーターが現地入りするなど日本中が大フィーバーであった。ところが11月17日巨額の不良債権を抱えた北海道拓殖銀行の経営が行き詰まり、11月24日には四大証券の一つである山一証券が自主廃業して仕舞った。タイに始まる通貨不安はアジア諸国に広まりつつあり株の下落が続いている。一番シッカリ

しなければならない先進国と言われる日本がこの有様では誠に情けない話である。市場原理の中で必然的に起きた出来事であるが、特に山一証券の場合、飛ばしによる簿外債務が2,648億円もあるとは、何と言うダメ経営陣であろうか。立ち入り検査をしながら、何ら有効な指導を行えなかった大蔵省の責任は重い。

「何もしない事の罪」を経営陣、官僚、政治家、国民、全員で考えるべき問題ではなからうか。しかし、あくまで正確な情報開示が前提条件である。

京都で12月1日に始まった温暖化防止国際会議は地球の未来を左右する。この大事な地球に大異変が起きてからでは全てが手遅れになる事を忘れてはならない。

今年2月7日いよいよ第18回長野冬季オリンピックが開催される。せめてこの聖火が全世界を平和に照らしてくれる事を祈ろう。

平成10年 1月 第24号

発行人：新潟県立村松高等学校同窓会東京支部 広報部

事務局：〒113-0034 東京都文京区湯島2-30-9 (有)ツルマキ 内
TEL 03-3818-6448 FAX 03-3818-6270
郵便振替 00160-9-26339